

「愚かな金持ちのたとえ」

2015年08月27日

ルカによる福音書 12章13節～21節。群衆の一人が言った。「先生、わたしにも遺産を分けてくれるように兄弟に言ってください。」イエスはその人に言われた。「だれがわたしを、あなたがたの裁判官や調停人に任命したのか。」そして、一同に言われた。「どんな貪欲にも注意を払い、用心しなさい。有り余るほど物を持っていても、人の命は財産によってどうすることもできないからである。」それから、イエスはたとえを話された。「ある金持ちの畑が豊作だった。金持ちは、『どうしよう。作物をしまっておく場所がない』と思い巡らしたが、やがて言った。『どうしよう。倉を壊して、もっと大きいのを建て、そこに穀物や財産をみなしまい、こう自分に言ってやるのだ。「さあ、これから先何年も生きて行くだけの蓄えができたぞ。ひと休みして、食べたり飲んだりして楽しめ」と。』しかし神は、『愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。お前が用意した物は、いったいだれのものになるのか』と言われた。自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならない者はこのとおりだ。」

主イエスを取り囲んでいた群衆の中の一人が「先生、わたしにも遺産を分けてくれるように兄弟に言ってください」と呼びかけた。主イエスの公平な人柄を信頼して、申し出たのであろう。彼がどんな財産問題を抱えていたのかは分からないが、不公平を正してもらいたかったのではないか。主イエスは「だれがわたしを、あなたがたの裁判官や調停人に任命したのか」とケンモホロ口に答えている。私は3度、遺言書公正証書の証人として立ち会い、印を押したことがある。遺留分の確保を確認したことがあるが、公正なものであったと思っている。

主イエスは一同に向かって「どんな貪欲にも注意を払い、用心しなさい。有り余るほど物を持っていても、人の命は財産によってどうすることもできないからである」と言われた。確かに、人の命は財産によって、どうすることもできないことがある。それから、譬えを語られた。ある金持ちの畑が豊作に恵まれた。あまりの豊作のため、収納する所がなくなった。彼は思い巡らし、大きな倉を建て、穀物や財産をしまい込もうと思った。そして、自分自身に「さあ、これから先何年も生きて行くだけの蓄えができたぞ。ひと休みして、食べたり飲んだりして楽しめ」と言い聞かせた。この譬えを語った後、「しかし神は、『愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。お前が用意した物は、いったいだれのものになるのか』と言われた。自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならない者はこのとおりだ」と結ばれた。

主イエスが語られた意図は理解することができる。「あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。」「金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。」権力を盾に民衆から富を収奪する社会構造を熟知しての言葉である。だから「富は、天に積みなさい」と言われる。しかし、貧しくて、健康や生活が保てない人々が大勢いる。温暖化による猛暑の中、クーラーを使わず、熱中症で亡くなる人がいる。世界的に見れば、飢えて死を迎える人々は億単位である。財産が命を支えている現実は確かである。「神の前で豊かになる、富を、天に積む」とは、どういうことか。それは、一人ひとり愛している神を知り、公平に分かち合って生きよということではないか。憲法25条の「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」ことを追い求めることである。